

事務事業名	顧問弁護士設置事業		所属部局	総務部	単位番号	3142								
			所属課室	総務課	課長名	小池 正之								
			所属担当	文書法制担当	担当者名	石川 珠美								
基本政策	基本計画体系	I	情報と連携の都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目			
		01	行財政改革の推進	01	一般	0	2	0	1	0	2	0	2	0
政策		02	行政改革の推進	事業区分	☐ 国の制度による義務的事業 ☐ 施設等維持管理事業 ☐ 県の制度による義務的事業 ☐ 補助金交付事業 ☐ 市の制度による義務的事業 ☒ その他の事業 ☐ 義務化されている協議会等の負担金									
施策														
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 年度)		法令根拠	事業費の主な内訳 (22年度)										
	☐ 期間限定複数年度 (年度 ~ 年度)													
事務事業の概要	事業の内容…期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 大きな法令改正等の相談、市の法的相談及び市民対象の無料法律相談(定員数を上回る場合)の相談を委託する顧問弁護士の設置事業。 ・予算要求→納付→相談依頼する担当課と顧問弁護士による法律相談の日程調整→法律相談の報告書の作成			項目(細節) 金額(千円) 項目(細節) 金額(千円)										
				委託料 630										
				計 630										

1 現状把握 (DO)

(1) 事務事業の目的と目標

① 活動	
22年度活動実績	法律相談等の日程調整、結果報告、総会(担当者会)出席
23年度活動予定	
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等	
職員	
市民	
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていのか、どのように変えるのか)	
法的に的確に問題に対処できる 市民の無料法律相談のキャンセル待ちがなくなる。	
④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	
法定闘争に発展するケースが少なくなる 市民サービスの向上	

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 法律相談件数	件
イ 例規改正相談件数	件
ウ	
⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 職員数	人
イ 市民	人
ウ	
⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 満足と回答した職員数	%
イ 満足と回答した市民数	%
ウ	
⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 訴訟まで発展した件数	件
イ	

(2) 事業費・指標の推移		単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終 (トータルコスト・目標)	年度
年間 トータル コスト	事業費 内訳	国庫支出金	千円							
		県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		一般財源	千円	0	630	630	630	630	630	
		事業費計 (A)	千円	0	630	630	630	630	630	0
	人件費	正規職員従事人数	人	4	2	2	2	2	2	
		延べ業務時間	時間	60	60	60	60	60	60	
		人件費計 (B)	千円	268	268	238	238	238	238	0
		(A)+(B)	千円	268	898	868	868	868	868	0
活動指標	アイウ	件		20.0	20.0	20.0	20.0	20.0		
	アイウ	件		20.0	20.0	20.0	20.0	20.0		
対象指標	アイウ	人								
	アイウ	人								
成果指標	アイウ	%								
	アイウ	%								
上位成果指標	アイウ	件								
	アイウ	件								

(3) この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか?	市及び市職員の行政上、民法上、刑事上に基づくトラブルに対し、即座に相談できる体制を整える。 市民対象の無料法律相談でキャンセル待ちの市民が多いため
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか? また、今後の予測は?	相談件数は増加傾向にある
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか?	なし

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は?	☐ 取り組みしている ⇒ [内容↓] ☒ 取り組みしていない ⇒ [理由↓]
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	H22年度からの事業である
③ H 22年度に実施した改革改善の内容	

事務事業名	顧問弁護士設置事業	所属部	総務部	所属課	総務課
-------	-----------	-----	-----	-----	-----

2 評価 (Check1) 担当者による事後評価 (複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない (見直し余地がある) ⇒ [理由↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒ [理由↓] 市民等との法的問題、例規改正問題等が速やかに対応でき、効率的効果的な行政運営が行なうことができる。 市民の無料法律相談は市民サービスの面から妥当。
	② 公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒ [理由↓] 市の事業等による法的相談であり、市民のための法律相談である。
	③ 維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒ [理由↓] 市に対し法的な責任を問うものである。 市民の無料法律相談は市民サービスの面から適切。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ 向上余地がある ⇒ [理由↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 向上余地がない ⇒ [理由↓] 法的相談について専門家である弁護士に相談している
	⑤ 類似事業との統廃合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☒ 類似事務事業がある ⇒ (類似する事務事業の名称を記入↓) ☐ 統合・連携ができる ⇒ [理由と具体案↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 統合・連携ができない ⇒ [理由↓] 県町村会法務事務支援参画事業は、法的相談以外に例規改正等において事務の支援を受けている。 ☐ 類似事務事業がない
	⑥ 休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり ⇒ [理由と影響の内容↓] 相談事項はいつ起こるか想定できないので設置しておくことは必要。 ☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない ⇒ [理由↓] 相談事項はいつ起こるか想定できないので設置しておくことは必要。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費 (コスト) を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒ [理由・具体案↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由↓] 今年度からの事業であるが、年々相談事は増加している。
	⑧ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？ (事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒ [理由・具体案↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由↓] 人件費は、契約書、支出伝票等の事務、弁護士への取次ぎである
公平性 評価	⑨ 受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由・具体案↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒ [理由↓] 市の事業等の法的相談であり、市民のための法律相談である。

3 評価 (Check2) 担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括 (事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	今後、市において地方分権制度等により多くの法的問題の発生が見込まれ、また住民の法律に関与する相談事は増えているため、この事業の重要性は増している。継続して行っていく。

4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性 (Check1の結果から定める)・・・複数選択可		(3) 改革・改善による方向性																						
☐ 廃止 (目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携 (有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善 (公平性⑨の結果) ☐ 休止 (目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上 (有効性④の結果) ☒ 現状維持 (全評価項目で適切) ☐ 必要性検討 (目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減 (効率性⑦、⑧の結果)		<table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト水準</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果水準</th><th>向上</th><td>☐</td><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><th>維持</th><td>☐</td><td>☒</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td>☐</td><td></td><td></td></tr></table> ※ 廃止・休止の場合は記入不要				コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☒		低下	☐		
		コスト水準																						
		削減	維持	増加																				
成果水準	向上	☐	☐	☐																				
	維持	☐	☒																					
	低下	☐																						
(2) 改革改善案について																								
①																								
②																								
③																								
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策		(5) 事務事業優先度評価結果																						
①		成果優先度評価結果	⑩																					
②																								
③		コスト削減優先度評価結果	⑥																					